

町の活動特集

—いなえ戦国シンポジウム—

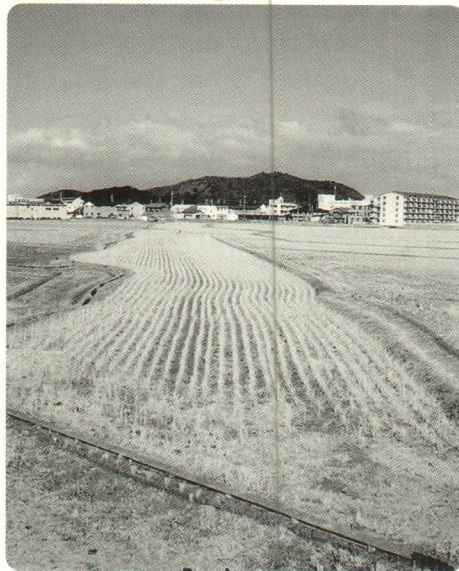
「肥田城の謎を語る」水攻めから450年

7月4日開催
聖泉大學教室

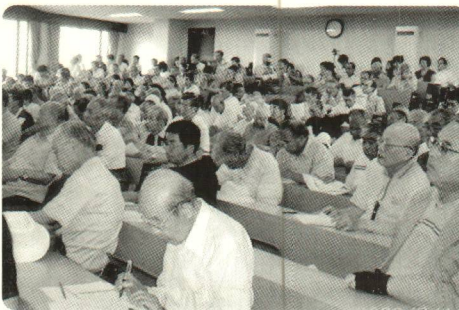
聖泉大學肥田城水攻め研究会 肥田町まちづくり委員会

ご存知のように肥田町では、平成18年19年20年の3カ年にわたり、町の圃場整備事業と並行して県及び市による肥田城遺跡調査、埋蔵文化財調査が行われ、私達は豊かな価値ある成果をいただきました。地元の聖泉大學さんも「成る程、肥田城がはつきり見えてきた」と学生有志の方が肥田城水攻め450年の年を契機として研究会を立ち上げられ、地域と共に学び合い、そして地域との共生の図れる運動に結びつけられと標記のシンポジウム開催の運びとなりました。7月4日当日には、この新鮮な取り組みに共感いただいた300人を超える参加者が集い終始熱心に耳を傾けておられました。

最初は大學演劇同好会による「水攻めミニ活弁」を披露、続いて基調報告並びにコーディネーターにNPO法人「城郭遺産」による街づくり協議会「中井均理事長、パネラーに市教育委員会 谷口徹文化財部次長、県文化財保護協会 堀真人主任技師、肥田町の崇徳寺 高瀬俊英住職、「どんつき瓦版」正村圭史郎編集長の皆さんによるパネル討論に入る。冒頭の基調報告で肥田城から見た戦国の稲枝、湖東地域、そして近江の城の役割の解説があり、次いで肥田の守護者「高野瀬氏」、彼らの城を守ろうとした郷の歴史、次いで戦国時代の肥田を取り巻く地元六角氏、浅井氏の動き、近江に生きたサムライたちの戦国史、また埋蔵文化財の発掘現場から見た肥田城の姿、加えて史上でも珍しい水攻めの姿を解くことで戦国時代の稲枝地域の姿に迫る、文字通りタテ、ヨコ、ナナメからの見方で大変分かり易く肥田城と水攻めの謎にせまっていたと、議論に、興味津々の2時間でした。これを契機に地元の聖泉大學では、広く更なる地域文化との共生と発展に役に立てるべく一歩の前進に意欲的です。



肥田城水攻め堤跡



広 報

ひだ

町 木

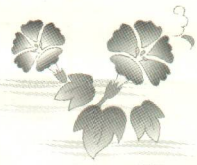


第51号

肥 田 町

まちおこし推進協議会

H21.8.1 発行



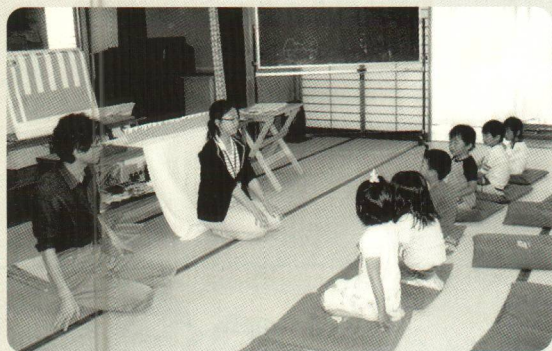
カンガルークラブで交通安全教室開催

6月17日に彦根市の生活環境課の方のご指導を仰ぎ、安全安心を強調される昨今の世の中、先ず幼い子どもたちにも命の大切さ、身の回りの危険防止に少しでも自分で気持ちを持つことが出来ればと願って交通安全教室を開きました。

命の大切さのお話に始まり、人形を使って分かり易く特に駐車場で危険度、紙人形を使って飛び出し注意、ゲームやビデオで信号機、交通安全の解説まで、また加えて横断歩道を渡る練習など、楽しい雰囲気の中で分かり易く教えていただきました。

私達も忙しい子育てに日々、少し止まって考える貴重な時間を頂きました。

カンガルークラブ 藤野裕子 鵜野峰子



ホタルを育てている川 周辺地帯の除草作業

6月7日、自治会の皆さん総出の除草の日

に、昨年来、まちおこし推進協議会でホタルの復活を賭けて努めてきている地帯の美化除草の作業を行いました。

お陰様でホタル先生方の懇切なご指導、支援、町の方々の環境づくりへの応援も受けて、6月初旬に初ホタルの飛び風景を見ることが出来ました。第2年目の大切な時が7月からスタート、改めて宇代先生を囲んだ勉強会を持ちたいと考えています。今後とも皆さんのご支援をよろしくお願い申し上げます。



7月7日

福寿会

「介護予防講座」開催

高齢期に入り、日々の生活を維持していくために必要な心身の能力が衰えていないかどうかを広くチェックし、自分自身が問題点を把握して介護予防を実践していくという勉強会です。教えていただいた「筋力をつけましょう」「家庭で出来る足腰の強化運動」「食べる楽しみを大切に」、そして「口を元気に保ちましょう」を、先ず習慣づけて実行しましょう。物忘れもついつい進んで来ている。そのため記憶力のためには日記をつけることも一つの方法です。もう一つの注意分割力、二つのことを同時に出来る頭の動きは、例えばお料理の多種の献立作りも貴重。もう一つの大切な計画力は、小さな旅の計画や、田圃や畑の栽培計画づくりが役立ちます。当日来られなかった人にも話し掛けて頂いてみんな揃って生き生き年齢を続けましょう。



山王をめぐる肥田の 古代伝承とは何か

高瀬 俊英

壬申の乱(じんしんのらん)とは

日本の古代、今から千三百余年前、大和朝廷（今の天皇の祖先）は都を大和（奈良）から一時期近江（滋賀）に移しました。朝鮮で大和朝廷と親交のあった百済が、隣国の新羅と中国の唐に滅ぼされたことから、唐や新羅が日本に侵攻してくることを恐れての対策だったともいわれています。

近江の都に遷都したのが天智天皇、その子どもに大友皇子、弟に大海人皇子がいました。天智天皇の死後、大友皇子が後継ぎになります（弘文天皇）が、唐や新羅と親交を深めていこうとする豪族に支えられた大海人皇子（のちの天武天皇）との間に皇位継承の争いが起こり、大友皇子は敗れて自殺をします（672年）。これを壬申の乱と呼んでいます。

大友夜須麻呂とひ孫肥田彦人

鹿島家の古文書によりますと、大友皇子の二子に夜須麻呂がおり壬申の乱の後しばらくして、持統帝5年（691）正月から肥田に住み、近江大領（郡役所の長官）となって働き天平10年（738）9月に亡くなったので、肥田里民が彼の徳を崇め建立したのが崇徳寺だと伝えています。

また、その曾孫（ひ孫）がヒエ庄の代官 肥田彦人で、彼の管理している土地を鎮守するため山王権現を祭りました（山王祠）。これは嵯峨帝の代といえますから（810～822）、平安時代の始め頃になります。その後、彦人は剃髪して薩摩坊真観と名乗ったといわれています。

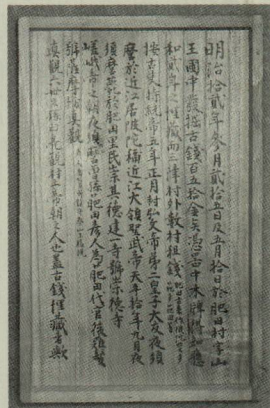
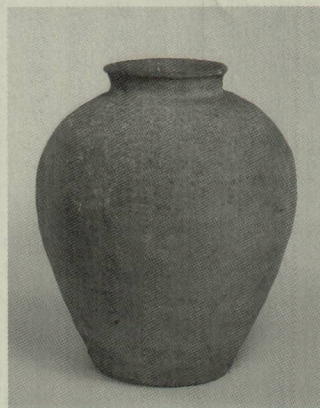
古銭等を入れた古壺が山王から

明治12年（1879）5月に、この山王の土中から古銭と木簡を入れた古壺が発見されました。現在、木簡は見当たりませんが、古銭は地元で分散して伝わり、古壺は東京国立博物館に保管されていることが分かりました。この時期に書かれたのが前項の伝承ですが、木簡にどの程度のことが書かれていたのか不明です。（木簡とは薄い板に文字の書かれたもの。）

肥田の歴史は、肥田城があったことで有名ですが、肥田城よりももっと以前に、山王をめぐる次のような伝承がありました。

明治初年、肥田の戸長（今でいう自治会長）をされていた鹿島弘一さんのご先祖が書かれた記録をもとに紹介しますと――

鹿島家文書はさらに、真観からかぞえて六代の孫を亮観といい、この人が古銭の埋蔵者で、応和2年（962）に埋蔵されたのではないかといっています。平安時代の中期ごろになります。



愛知郡肥田村字山王出土 内に古銭

埋蔵文化財調査でも検証

平成18年には肥田の上田で、平成19年には北田で、平成20年には中田の小字山王周辺で大々的な埋蔵文化財調査が実施されました。

18年に小字北墓立からは、奈良～平安～鎌倉時代、肥田の管理者＝在地豪族と思われる住宅や倉庫跡が、何度も建て替えられながら（家屋の床面積は広くなりながら）出土しましたし、豪族の家屋跡から東山道（中山道）にむかって8m幅道路も発掘されました。

20年には、小字山王付近からは寺院や持仏堂の存在が確認されていますし、ともに肥田に残る伝承の夢を膨らませます。

19年の塚乞手周溝遺跡からは、土器埴輪に混じって、鳥形埴輪、笠形埴輪など木製埴輪が出土しましたが、5世紀から6世紀前半のことで、肥田の古代伝承よりもさらに古い時代を物語ろうとしています。

稲枝東小学校 社会科校外学習で肥田町訪問



5月19日に本年新しく3年生になられた82名が肥田町に「地域たんけんたい」として校外学習にられました。肥田の町にも固有の歴史と生活文化があり、そして今は人々がここに住んでいて良かった、これからも住んでいたいと思われる町でありたいと願って町づくりが続けられています。そんな思いが、丁度好奇心の旺盛な3年生の皆さんにうまく伝わってくれればと願っています。

今回は肥田城に関係したお話の他、私達のホタルを育てている川や、宇曾川の風船ダムの見学、加えて希望のあった肥田町の伝統のある職業の一つ畳屋さんを訪問、畳屋さんでは畳表のイグサ、畳床はワラと今はボードとフォームも使われて、ワラ床30kgボード床15kgと軽量畳も増えていること、また手縫いから機械化に変わり能率もアップ、また現在では、稲枝地区では6軒が営業、昔は技術をお店に奉公して見習ったが、今は滋賀県畳職業訓練校で勉強が必要となっているお話などに興味津々。日常お世話になっている畳の今昔について新鮮に感じてもらった。



2009/5/19